

令和 8 年度
大阪市立上福島小学校
運営に関する計画



令和 8 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

1 現状

かつて全学年単学級であった状況から校区の変更を経て児童数の増加に伴う様々な取り組みの見直しが行われてきた。児童数の増加については落ち着いてきたが、校区外から登校する児童の割合は高い。またその中には保護者がきめ細やかな配慮を期待していることもあり、毎年多くの教育相談を受けている。令和9年度には以前の通学区域に戻るが、学校選択制で児童数については先が読めない。児童数のわりに運動場が狭く、休み時間には学年限定使用することでケガや事故の防止に取り組んでいる。家庭教育力は高く、進学先中学校が遠いため私学等を受験する児童が多い。児童たちは心優しく大きなもめごとは少ないが、困ったことに対して自分で解決する力は弱く、小さなトラブルを自力で乗り切れないことがある。若い保護者も多くまちは活気があり、新しいことに取り組んでいくことが学校の活性化につながっている。

2 課題

素直で指示されたことをしっかりとこなすことができる。しかし、発想の豊かさはあまりなく個性を活かせていないことが多い。また、自分の判断にかかわる積極性と責任感には十分には育っていない。言われたことはできるが、何故しないといけないのか、今していることが何につながっていくのかという見通しを持った行動はできていない。特別な支援を要する児童も多く、教室全体がやさしい雰囲気ではあるがその反面厳しさが十分ではない。学力は高いが、どの学年にも経年テスト等で正答率が5割未満の児童が数名おり、かなり大きな学力差がありなかなか改善が進んでいない。今後の自己調整学習に向けて学校が情報をしっかりと発信し、各家庭とそれぞれの児童の実態について課題を見出し、改善に向けて取り組んでいく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人が困っている時は進んで助けていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。
- 全国学力・学習状況調査において「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言語の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 体験活動等を通じた協働的学びと一人一人の子どもの状況に応じた個別最適な学びの推進を図り、学校アンケートにおいて「自分の課題にしっかり取り組んでいる。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 食育にかかわる系統的な学習計画を作成し、食にかかわる体験的な取り組みを通して、学校アンケートの「食について興味を持ち、健康についてしっかりと考えていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外労働時間を月 20 時間以下にする。
- 読み聞かせに関わる活動を積極的に実践し、学校アンケートの「音読に積極的に取り組みましたか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人が困っている時は進んで助けていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言語の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 体験活動等を通じた協働的学びと一人一人の子どもの状況に応じた個別最適な学びの推進を図り、学校アンケートの「自分の課題にしっかり取り組んでいる。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 食育にかかわる系統的な学習計画を作成し、食にかかわる体験的な取り組みを通して、学校アンケートの「食について興味を持ち、健康についてしっかりと考えていますか。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外労働時間を月 20 時間以下にする。
- 読み聞かせに関わる活動を積極的に実践し、学校アンケートの「音読に積極的に取り組みましたか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立上福島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「人が困っている時は進んで助けていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言語の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童集会におけるなかよし班遊びを学期に1回以上行い、異学年交流を活性化する。学級で児童が学習を楽しいと思える、だれもが「できた・わかった」と感じられるような授業を展開していく。	
指標 ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・『あいさつ・ありがとう週間』を年に1回以上行い、児童が困っている人に自ら声をかけられるような素地を育てる。また、学年や学級で年に1回以上『ありがとうの木』を作成し、自分の受けたありがとうを付箋などに記載し、貼り付け、視覚共有する。	
指標 ・小学校学力経年調査における「人が困っている時は進んで助けていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・授業や学校生活において、児童一人一人の努力や成長を価値づけするため、掲示物や成果物等の披露・発表の場を設け、積極的に認めることができる環境を整えたり、自分のよさを自覚できる機会を計画的に設けたりして、自己肯定感の向上を図る。	
指標 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。	

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・国際交流の観点を取り入れた教育活動を計画的に実施するとともに、教科横断的な学びを通して、互いの違いを認め合い、協働して課題を解決する力を育む。	
指標 ・小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言語の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

大阪市立上福島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ○体験活動等を通じた協働的学びと一人一人の子どもの状況に応じた個別最適な学びの推進を図り、学校アンケートの「自分の課題にしっかり取り組んでいる。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を40%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○食育にかかわる系統的な学習計画を作成し、食にかかわる体験的な取り組みを通して、学校アンケートの「食について興味を持ち、健康についてしっかりと考えていますか。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を45%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・年間計画を立て、「探究的な学び」についての研修を実施し、各教科における探究的な学びの視点を取り入れた授業に取り組むことで、児童が主体的に課題を見出し、他者と協働しながら解決に向かう力を育む。	
指標 ・小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・児童一人一人の興味・関心や課題意識を大切に、自分で「何を」「どのように」学ぶかを選択できるようにすることで、自分で学びを進める自己調整力の育成を図る。 ・どう学んだか、新たな疑問や課題につなげられるよう、学習の過程や自分の変容を振り返る時間を設定する。	
指標 ・体験活動等を通じた協働的学びと一人一人の子どもの状況に応じた個別最適な学びの推進を図り、学校アンケートの「自分の課題にしっかり取り組んでいる。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を40%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・体育の年間計画を工夫し、様々な運動領域にバランスよく触れ親しむ機会を充実させるとともに、児童一人一人の発達段階や実態に応じた指導の工夫に努める。	
指標 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】	

・食育に関する系統的な学習計画を作成し、各学年の発達段階に応じて学習園・なかよし畑での栽培活動を行うとともに、福島区の特性を活かして中央卸売市場と連携しながら、食育の充実を図る。 指標 ・食育にかかわる系統的な学習計画を作成し、食にかかわる体験的な取り組みを通して、学校アンケートの「食について興味を持ち、健康についてしっかりと考えていますか。」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

大阪市立上福島小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 ○教員の 1 か月あたりの平均時間外労働時間を月 20 時間以下にする。 ○読み聞かせに関わる活動を積極的に実践し、学校アンケートの「音読に積極的に取り組めましたか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX 推進】 ・スライド作成や思考ツールなどで自分の考えを表現したり、成果物を共有したりする活動を通して、学び合う楽しさや有用性を実感できるようにする。	
指標 ・小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・学年内伝達を徹底し、可能な限り同時進行の部分会議を実施することで、会議の設定のない日を増やす。文書事前提案を基本し、会議にかかる時間の短縮化を図る。	
指標 ・教員の 1 か月あたりの平均時間外労働時間を月 20 時間以下にする。	
取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 ・教員や図書館司書、図書委員による読み聞かせや、学級での「読む・伝える」活動を通して、心を込めて読むことの意義や楽しさを実感させ、主体的に音読に取り組む態度を養う。	
指標 ・読み聞かせに関わる活動を積極的に実践し、学校アンケートの「音読に積極的に取り組めましたか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

後期への改善点